学校長通信 No.30

高校生の安全意識について

泉佐野ロータリークラブ例会卓話より

本日は、RC 例会にお声かけいただき誠にありがとうございます。大阪府立日根野高等学校校長の岸野と申します。一昨年 9 月にも一度参加させていただきましたので、今回で 2 回目となります。前回は本校がめざしている新しい公立高校のカタチについてご説明させていただくことを通じ、大阪の公教育が抱えております課題についてお話させていただきました。簡単におさらいさせていただきますと、難関大学進学にこだわることで学校としての一定のプレゼンスを示しながら、やみくもに都会を志向するだけでなく、地元に根付き地元に納税し地元に貢献する専門性の高い人材を輩出していきたい、そのために医療看護のプロや幼児・児童教育のプロを育てたい、そういうお話をさせていただきました。モノやサービスが行き渡り、将来への漠然とした不安を抱え、日本人の殆どがモノを買わずにキャッシュをひたすら貯めて行くなか、医療・看護や親の介護、保育や教育等のサービスには多くの日本人がもっと必要性を感じてくれるはずだと考え、本校が選択した実社会へと繋がる道筋です。

さて、前回のお話はこれまでとして、今日は「高校生たちの安全意識」についてお話させていただこうと思います。今の高校生と私たちの世代の決定的な違いは「あつかう情報量とその速度」にあります。ご承知のようにインターネットとそのプラットホームとしてのスマートフォンの普及は、情報の量と速度を変えてしまいました。それによって、今までなら見過ごしたり気付かなかったりしたことが、バーチャルであるとはいえ鮮やかにいつでも再現され、それによって私たちは賞賛されたり非難されたり、持ち上げられたり叩きのめされたり、と過激な現実と隣り合わさざるを得ない日常となっています。今の子どもたちもこういう恐ろしさの真っただ中で高校生活を送っており、私たち教員もその恐ろしさを前提に指導していくという時代になっています。まずは不要不急の個人情報の露出は厳に慎むこと。SNS 上の情報露出は、丸裸で公衆の面前に立ち、しかも TV で世界中継されるようなものだという認識を持つこと。これが基本です。危ういことに、生徒達はこの手のひらの上に展開されている危機への認識が甘く、私たち大人はその現実を十分に認識し指導してやる必要があります。

高校生にとって最も大きな危険とは、SNS を通じて人格を完全否定されること。これは命に関わる問題にまで進行してしまう危険性があります。問題が複雑なのは、加害者と被害者の関係性が表裏

一体になっていて、攻守逆転が頻発することです。また、犯罪行為に巻き込まれる場合が多く、子ども達がさらされている「情報の暴力」に私たちは立ち向かっていく必要があります。特に、本日は RC 様のご活動への一助としまして、高校生の危機のひとつですが「薬物乱用問題」を取り上げることとしました。いうまでもなく高校生たちはドラッグの誘惑に晒されています。そのことに対し、府立学校ではお手元の資料などを使い安全意識を高めております。また、生徒達と直接話をしてみますと、危険ドラッグ販売店に足を向けることはおろか、ネット上での怪しいコンタクトにも敏感に危険を感じとり、接近することはありません。ところが一方で、ドラッグらしきものを勧められたことがあると回答する高校生が６％前後（つまり、ひとクラスに２～３人）存在し、そのルートは地元の先輩だという現実があります。もし、お酒やたばこを先輩が後輩に勧めるような感覚でドラッグを扱っているとすれば、大変深刻な問題であり、地域社会全体での啓発啓蒙活動の必要性も感ずるところでございます。

以上、駆け足ではございましたが、高校生を取り巻く危険な環境と安全意識につきましてお話させていただきました。ありがとうございました。